



図書館員のための オープンサイエンス

杉田茂樹(上越教育大学)

ssugita@juen.ac.jp

国立大学図書館協会中国四国地区協会・JPCOARワークショップ

2020年2月13日 岡山大学

オープンサイエンス

オープンサイエンスとは、研究者のような専門家だけでなく非専門家であっても、あらゆる人々が学術的研究や調査の成果やその他の発信される情報にアクセスしたり、研究活動に多様な方法で参加したりできるようにするさまざまな運動のことである。オープンサイエンスは、オープンアクセスの推進など科学的な知をもっとオープンにし、社会に伝えるというさまざまな活動を含む。

a cultural change

オープンサイエンス、より正確を期すならオープン scholar シップ(Open Scholarship)は、**文化を変える**ことを意味する。研究、教育、知識交流コミュニティの関係者が、**自身の活動のアウトプットを創出し、蓄積し、共有し、世界に届けるそのやりかたの変革**である。

欧州研究大学連盟(2018). オープンサイエンス及びそれが大学において果たす役割

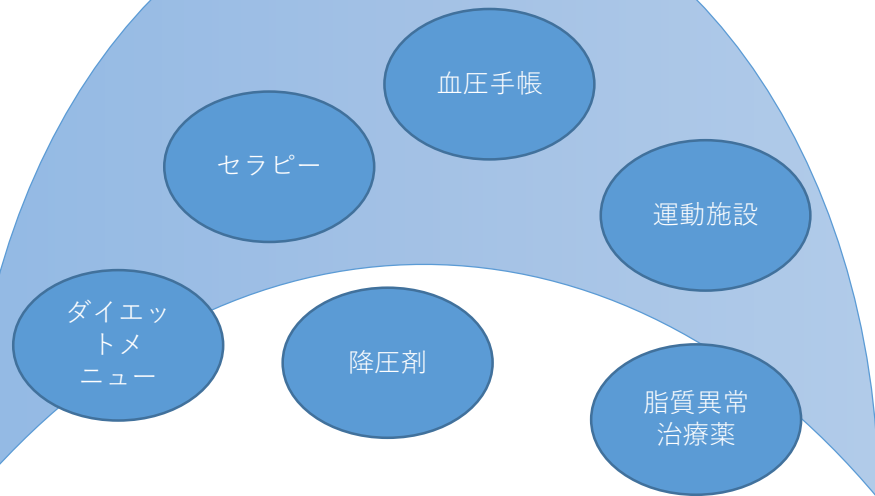
⇨ 研究活動上の生活習慣を変えること

オープンサイエンスで想定される 研究者の行動様式

- 論文は、CC等のしかるべきライセンスの下にOAに
- 研究データもオープンにし、追試可能に
- 使用ソフトウェアも利用可能とし、研究の再現を可能に
- 研究の中途段階でも論文、データを公開。論文であればOAリポジトリでのプレプリント公開など
- もちろん前項は常に可能とは限らない。当面データを専有したいことも。それでも、公表用加工済データはオープンに
- 論文やデータには標準識別子を付与。ORCID、FundRef、DOI、DataCite、Open Citationなど

生活習慣を変えるには？

国民健康づくり運動

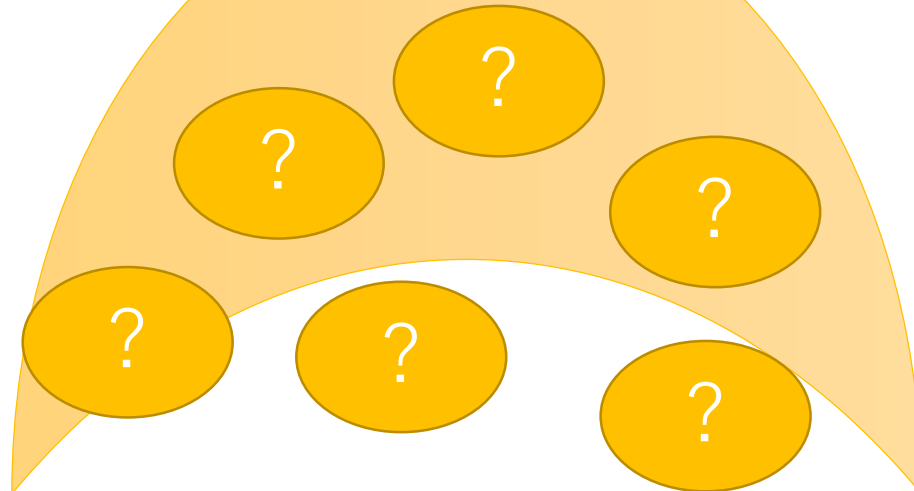


自助サークル



禁煙外来

オープンサイエンス思潮



?



?

8つの構成要素(欧州)

- 未来型の学術出版
- FAIRデータ
- 欧州オープンサイエンスクラウド(EOSC)
- 教育とスキル開発
- 顕彰とインセンティブ
- 次世代評価指標
- 研究公正
- 市民科学(シチズンサイエンス)

EU OSPP勧告 (2018)

https://ec.europa.eu/research/openscience/pdf/integrated_advice_opspp_recommendations.pdf

- 各大学における基盤システムの整備
- EOSCと親和する研究データ管理の実現（→相乗的にEOSCそのものも顧客セントリックに）

欧州オープンサイエンスクラウド（EOSC）

未来型の学術出版

- 強制力のあるOA方針
- 著者識別子（ORCID等）利用の奨励
- 学術出版の新たなメカニズムの考案

FAIRデータ

- 大学としての研究データ管理方針
- インフラの提供
- 目録化（公開・非公開を問わず）
- 段階的なアクセシビリティ制御

市民科学

- 研究手法の進化形としての認識共有
- 市民科学プロジェクトへのDMP要請



- 採用、評価、昇進への組み込み
- 担当職員への適切なガイダンス

顕彰とインセンティブ

- インパクトファクター依存からの脱却
- ライデン声明に沿った評価指標の開発

次世代評価指標

研究公正

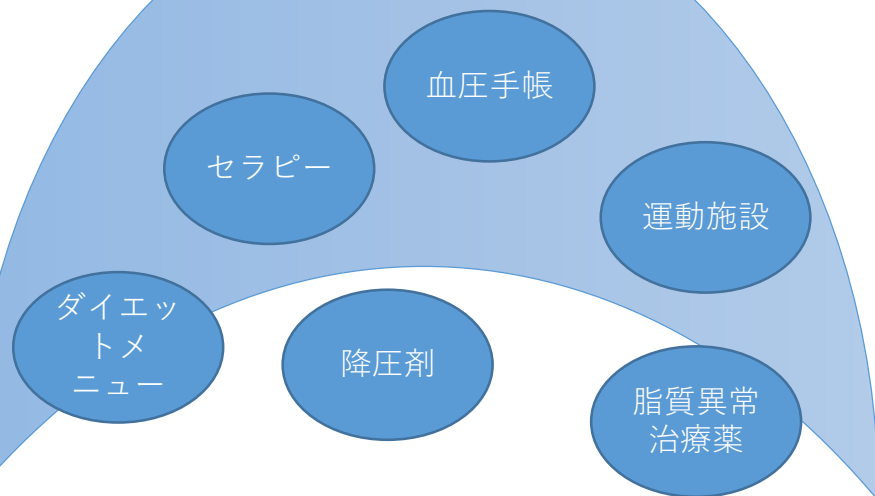
- 公正性保証の礎であるとの認識共有
- 行動規範への組み込み

教育とスキル開発

- 聴衆別／分野別、インセンティブ
- モニター（＝機関全体への浸透度の計測）

生活習慣を変えるには？

国民健康づくり運動



自助サークル



禁煙外来

オープンサイエンス思潮



研究公正



市民科学

どこからどう手を付けるか

- **これをやるにはまずこれをやらないといけない**
- **これを実現するには、前提としてこの技術の開発やこの制度の確立が必要**
- **これは既に別のストーリーで進行してしまっており、論理的整合性をとらないといけない**
- **これに手を付けるにはまだ不透明要素が多すぎる**
- **これはすぐできるが、あれがまだできていない以上、先にこれをやるのは意味がない**
- **技術的な課題が解決されても動かすのはたいへん**
- **制度はつくれても動かすのはたいへん**

始めなければ始まらない

- **最終目標は生活習慣の変革**
 - 研究データのオープン化は目標ではなく、手段かという
とそうでもなく、過程というかパーツのひとつ
 - でもとりあえずそこから手をつけますか
- **行路は遠大、道標なし。だから気楽にやりましょう**
- **ひとつでもふたつでも入れてみることに**
 - **そして経験を共有！**
- **そのためには、なによりもまず研究者と対話**

参考

第47回LIBER年次大会「オープンサイエンスのハブとしての研究図書館：戦略から行動へ」

<https://liberconference.eu/2018-presentations/>

- **Session 1: 乾坤一擲 国家規模～全欧州規模の契約折衝**
- **Session 2: 研究データ管理(RDM): 課題と取り組み**
- **Session 3: 協働しよう: パートナーシップを開発する**
- **Session 4: オープンサイエンスへの移行を先導する**
- **Session 5: オープンアクセス: ビッグディール後の世界に向けて**
- **Session 6: OPENでFAIRな契機を見つける**
- **Session 7: 訓練者、教育者としての研究図書館**
- **Session 8: 研究者のニーズを理解する**
- **Session 9: すべての道はオープンアクセスに通ず**
- **Session 10: 研究図書館サービスの研究データに関する機能強化**
- **Session 11: 次世代技術**
- **Session 12: OPENでFAIRなコミュニティを支援する**